

障害者支援施設における公共交通機関訓練

訓練内容

- ・公共交通機関の利用にあたり、どのような点に注意して利用すれば良いかを、療法士とともに実際の場面で確認する訓練です。
- ・必要に応じて、電動車いすでの外出も実施します。
(令和4年度に利用を開始した車椅子利用者14名中7人が電動車椅子の練習を実施)

取り組み

<地下鉄・市バスの訓練>



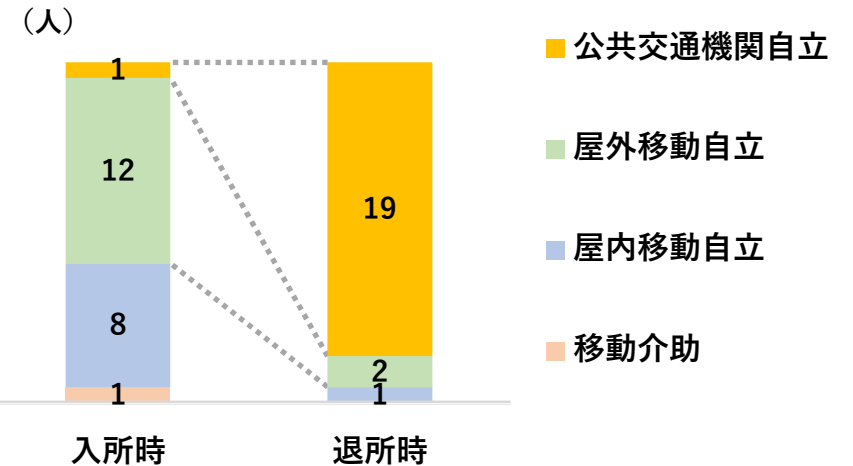
外出訓練			
名前: _____ 様		○回目	
障害特性: 片麻痺(右・左)、失語(有・無)			
日時: _____年 _____月 _____日		記載者: _____	
実施ルート: _____			
外出に対する自信 主観: _____ /10点			
◆評価: ◎=安全に行える ○=可能だが注意が必要 △=配慮が不十分・介助が必要 -=未実施			
項目	内容	評価	
		前回	今回
基本事項	必要な物品を所持できる		切符が購入できる(ICカード可)
	待ち合わせ時間/場所が守れる		安全に改札を通過できる
	外出に耐える体力がある		ホームの選択を適切に行える(乗換え)
	外出の計画を立てられる(時間管理/車する路線の把握など)		乗降動作が安全に行える(乗: から 降: から)(杖/手すり)
	目的地までのルート把握している		車内の移動が安全に行える
	地図や案内表示を活用できる		混雑時の安全確保ができる(立位保持等)
	迷った時に修正できる/他者に聞ける		座席への起立着座が安全に行える
	雨具の使用ができる		降りる駅を判別できる
	周囲の状況に応じた対応ができる(他への配慮等)		遅延時に対応できる
	階段が安全に使用できる		エスカレーターが安全に使える(乗: から 降: から)
バス	乗車するバスが判別できる		
	支払いができる(手帳提示含め)		
乗降動作が安全に行える(乗: から 降: から)(杖/手すり)		◆振り返りコメント	
車内の移動が安全に行える		<本人より>	
混雑時の安全確保ができる(立位保持)		<評価者より>	
座席への起立着座が安全に行える			
降りるバス停が判別できる(停車ブザー)			

障害者支援施設における脳卒中者の実用的移動能力分類の推移。
(愛知県理学療法学会誌 35巻1号)

シートを用いてご本人と訓練の振り返りを行います。また、結果を他職種と共有し、手順書の作成や動作練習などを行います。

実績

歩行能力の推移



令和2-4年度 対象者 n=22

歩行能力を自分自身で理解することで、より安全な公共交通機関の利用を目指します。